

## 「苗」研究のエントリーシート

研究テーマ	経済社会像の転換と地域社会における社会的包摂の意義と可能性		
研究代表者	小松田儀貞	役職	准教授
フリガナ	コマツダ ヨシサダ	学位	文学修士
学科等	総合科学教育研究センター	Eメール	<a href="mailto:komatsuda@akita-pu.ac.jp">komatsuda@akita-pu.ac.jp</a>
主な共同研究者 (学内)	小池孝範（総合科学教育研究センター）		
主な共同研究者 (学外)			
研究の内容			
<p>人類は世界的な人口増加、資源不足による危機に直面していると言われる。一方で日本を含めた「先進」社会の多くは少子高齢化が進展し、社会的経済的停滞への危機感がより高まっている。しかしながら、とりわけ日本で深刻に受けとめられている人口停滞の状況は、ロジスティック曲線という視点で見ると、「危機」というより歴史的な「転換点」として、むしろ「定常期」という未来社会への「過渡期」と考えることができる。（見田宗介 2006）</p> <p>各種の報告があるように、貨幣・商品の量的拡大という意味での経済成長が当の社会を構成する人々の幸福（感）の増大に必ずしもつながっていない。経済成長に貢献する狭義の「科学」や「技術」にのみ依存するのではなく、それらを含みつつも既存の人間像や社会像を再定義し統御していく統合的なシステム思考に基づいた新しい経済社会像や社会設計の視点が現在求められている。格差拡大、雇用不安など生活の安定性や平穩を損なうような経済社会より、むしろ物財の豊かさを減じてでも安定した人間関係や職業の確保を望む人々が増えている。実際に、金銭的豊かさを求めない（必要としない）安全で豊かな「成熟社会」を構想する経済学も現れている。（小野善康 2012）経済成長の是非はともかく、このように個人のみならず仲間や地域社会（コミュニティ）という価値、諸個人の尊厳と生活基盤を大切にしながら何より「生活の持続可能性」を求める声が高まっている。「人類の持続可能性」の基礎には生活の場である「地域社会の持続可能性」が不可欠である。</p> <p>このように、仮に困難な状況にあってもその人々の教育・訓練、就労、社会貢献活動などの社会参加への意欲を低下させず、これを社会形成の一員として処遇して社会連帯と社会統合を確保するという観点から、（特に仕事や学業において不安定な）若者や高齢者、障がい者など就労や社会参加から排除された人々を受容し、（再び）<u>社会に包み込むこと</u>の重要性・必要性が強調されるようになってきている。（図2）こうしたことが結果的に社会保障費等の社会的コストの低減に結びつくことも含め、これが近年「社会的包摂」（social inclusion）の視角として学術的、社会政策的に注目され、成熟した社会形態の一つのモデルとして議論されるようになってきている。（社会的排除リスク調査チーム 2012）</p> <p>本研究の目的は、この社会的包摂の視角から、秋田県藤里町の社会福祉協議会および民間団体が中心となって進めている「ひきこもり」支援、自死予防活動等とそれを支える地域社会の状況を狭義の福祉</p>			

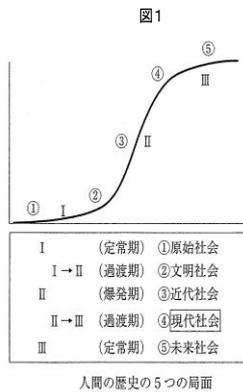
領域の問題に限定せずより包括的に捉え、それが少子高齢化、産業衰退等により活力を低下させている地域社会にどのような効果を与えているかを明らかにすることである。具体的な研究課題としては、①失業や就労不安定、家族・親族内・近隣関係コミュニケーションの希薄化などの社会的排除リスクの事例の検討、②社会福祉協議会その他の関係機関および市民団体の活動と地域社会における社会的包摂の実態の検討 ③地域住民の社会教育としての社会的包摂の意義の検討、等を設定している。

本研究を通じて、困難を抱える地方において持続可能な地域社会のあり方を探り、現代日本社会の抱える課題克服の道を展望する共に「成熟社会」の可能性について考えたい。

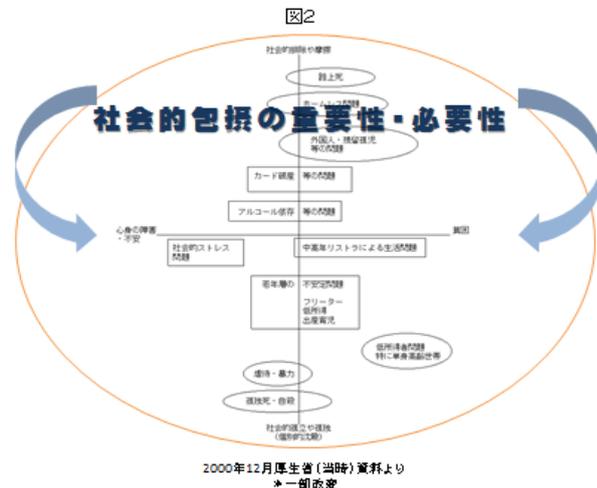
※本研究に関連する研究課題を共同研究者と共に平成 25 年度科学研究費基盤 C として申請。

【参考文献】

- ・見田宗介 2006, 『社会学入門——人間と社会の未来』岩波書店
- ・小野善康 2012, 『成熟社会の経済学——長期不況をどう克服するか』岩波書店
- ・藤里町社会福祉協議会・秋田魁新報 2012, 『ひきこもり町おこしに発つ』秋田魁新報
- ・社会的排除リスク調査チーム 2012, 『社会的排除にいたるプロセス～若年ケース・スタディから見る排除の過程～』内閣官房社会的包摂室/内閣府政策統括官



見田宗介『社会学入門——人間と社会の未来』  
2006.p159より



研究の独自性・アピール点

- (1) 社会的排除が地域社会の衰退を加速させている点に注目することにより、自死、ひきこもりなど分離して捉えられてきた地域社会の個別諸問題を統合的に把握する点。
- (2) 社会的包摂のモデルが健全で活力ある地域社会にとって重要であることを示すことにより、これを全体社会の持続可能性のモデルに拡張することができる点。

期待される成果・波及効果

社会的包摂の視角から衰退する地域社会の問題を統合的に把握し、秋田の個別事例をより一般的な形で現代社会の課題克服の方法論へと発展させることができる。

関連する主な業績

- ・小松田儀貞「生命と政治——M・フーコーにおける生権力・生政治・統治性」『秋田県立大学総合科学研究彙報』(秋田県立大学総合科学教育研究センター) 2012年、第13号、1~13ページ

キーワード

社会的包摂、社会的排除リスク、成熟社会

